



問 洪水による水害の減災対策について

答 備えが重要、マイ・タイムライン作成を周知していく

事前対策でダメージを減ずる。

問 水害ハザードマップにある浸水想定水深の根拠は。町を横断する程の浸水に対する水の流れのシミュレーションは。

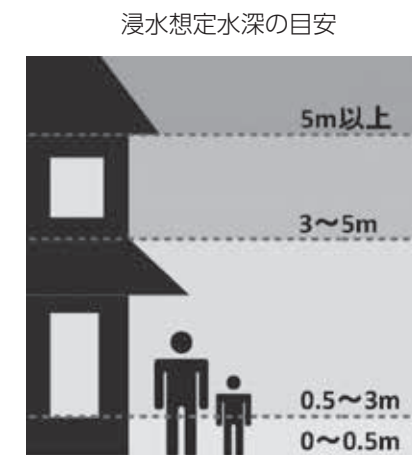
生活安全課長 水防法の改正に基づき、想定し得る最大規模の降雨に対応した浸水想定区域が国によりシミュレーションされ公表されていま

す。町のハザードマップは、利根川水系八斗島より上流域の72時間総雨量491ミリの想定。町を横断する程の浸水時の水の向きや流量のシミュレートはされていませんが、浸水ナビや地点別浸水シミュレーションにより、経過時間ごとの浸水深や浸水エリアが検索でき、浸水の想定に有効と考えられます。

問 町民の避難以外で具体的な減災対策は。例えば、自家用車・公用車の防水対策、住宅床下への浸水防止策、上下水道施設の浸水対策など。

生活安全課長 減災対策の基本は“自助”にあり、そのため今後ともマイ・タイムライン作成講習会等を継続して開催していきます。

さらに、平時の体制づくりや各種防災訓練等を実施。警戒時には情報伝達に万全を期すとともに、土のうの配布や自主避難用に中央公民館を開所します。公用車は人的被害を最小限に抑えることを第一に考え行動した上で、可能な限りの浸水対策を実施します。ご提案の自家用車用浸水防止



(出典) 国土交通省資料を基に作成

シートや住宅床下の浸水対策等は減災に有効な手段と考えられます。このような町民の皆様からの工夫などは講習会等での紹介を検討します。上下水道施設は事業継続計画等に基づき、災害時の社会的影響が最小になるよう努め、効率的な浸水対策を考えてまいります。

水害時床下への泥水侵入防止策
通気口遮蔽板設置前



通気口遮蔽板設置後



自動車用防水シート(イメージ図)



問 分散避難を含めた水害対策の啓発手段は。

生活安全課長 マイ・タイムライン作成講習を中学生に毎年実施、昨年度は全町民を対

象に実施、今年度は防災訓練において実施予定です。広報紙での水害特集やスマホセミナー等も実施しました。分散避難は避難所の混雑緩和等に

有効であり、自宅での垂直避難や遠方への避難等についても有効な手段であると周知していきたいと考えています。